実践事例　小学校６年

道徳の時間で活用する
～生命の尊さ～

周南市立岐山小学校　楯　規子

1　本場面におけるポイント

● **資料と自己をつなぐことに生かす。**

「私たちの道徳」の文章を読んで、自分の今を見つめることで課題意識をもって資料に入ることができるようにする。

● **読み物資料として活用し、自己の考えを深めることに生かす。**

祖父の命と向き合う主人公の気持ちや祖父の思いを考えることを通し、命の連続性や限りある命を懸命に生きることの尊さを考えるようにする。

● **振り返りの場面で、自己と周囲との関わりに気付くことに生かす。**

周囲の温かい気持ちを知った後、今の自分の気持ちを「私たちの道徳」に書き込むことで、自分と周囲とのつながりを改めて感じたり、これからの自分について考えたりすることができるようにする。

2　授業の実際

１　主題名　自他の生命を尊重して　「資料名　その思いを受け継いで」

２　ねらい

祖父の手紙が大地に残した思いや、命には限りがあることを考えることを通して、改めて自分の命の貴さを考え、大事にしていこうとする心情を育てる。

３　展開

（１）導入

教師：どんな時に「命の輝き」を感じますか。
A児：目標に向かって、一生懸命努力しているとき。
B児：楽しいことやうれしいことで幸せを感じるとき。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」５・６年生用P98を読んで、輝く命について考える。意見を交流することで、様々な輝き方があることに気付いたり、似たような体験を想起したりする。命に対する思いを共感する場とする。

ここでは、将来の夢や目標に向かって努力したり達成感を味わったりしている時や、周囲との関わりで生まれる喜びや幸せを感じている時などでの「命の輝き」を捉えさせることに留める。

(1) 自他の生命を尊重して

限りあるたった一つの命だから

私たちは、たった一つの
かけがえのない命をもった。
草や木にも、動物たちにも、私にも
だれにでもたった一つの命。
命は、自分の力で生かしていくもの。
そして、多くの人たちに生かされていくもの。
かけがえのない命、限りある命だから
精一杯かがやかせたい。

98

「私たちの道徳」P98

（２）展開　（主な教師の発問と児童の発言）

教師：じいちゃんが亡くなった時、手をにぎるぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。
Ｃ児：生きていてほしい。もう少しでいいから、一緒にいたい。
Ｄ児：悲しくて辛い。じいちゃんの死は受け入れられない。
教師：手紙から、じいちゃんの思いを考えよう。
Ｅ児：命は、いつかは尽きるものだけど、忘れないでいてほしい。
Ｆ児：生まれてきてくれてありがとう。病気をせず、元気に過ごすんだよ。
教師：命を輝かせるとは、どんなことでしょう。
Ｇ児：夢に向かっている時だけでなく、人生の最期も命を輝かせることができると思う。
Ｈ児：自分がいるのは、父母や祖父母達が一生懸命生きてきたからだと思ったので、今を一生懸命生きたい。自分が輝いているなんて考えたことがなかったので、自分や周りの人の輝きに気付きたいと思った。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

この資料では、祖父との最期の別れの時の主人公の心情と、祖父からの手紙を受け取ったときの祖父の思いに焦点をあてたい。特に死を目前にした祖父が力の限り手紙を書くことを選んだ状況を意識させてから、祖父からの強く温かいメッセージの意味を考えさせ、手紙を挟んで左右にそれぞれの思いを板書した。

（３）終末

教師：自分の幼い頃の様子やエピソードを読んでどんなことを感じましたか。
Ａ児：私が知らない小さなことまで、親はよく覚えてくれていたな。
Ｂ児：私の性格や考えなどをよく分かってくれて、大切にされているんだな。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」５・６年生用P102～103にある幼い頃から今までの自分の様子を、予め保護者に尋ね、記入してもらっておく。初めて目にする感動をもたせるのであれば、別紙にプリントしたものへの記入でもよい。

ここでは、保護者がどんな気持ちで自分の成長を思っていたのかを感じることで、大事に育まれてきた命であることを確認する場面とする。

３　実践を振り返って

本実践、すなわち「私たちの道徳」の「自他の生命を尊重して」に関わる内容は、総合的な学習の時間「平和について考えよう～回天を通して～」から社会科の歴史や「震災復興の願い」とつながり、そして「命と向き合う授業」におけるへき地医療（災害地での活動）への取組といった「命」に関わる一連の学習の中にあり、相互に関連付けられるように年計画に位置付けている。保護者からいただいた温かい思いが書かれたページを卒業前に読むことで、命と周囲との関わりについて考える機会を設定し、価値理解を深めたい。

「私たちの道徳」P102～103